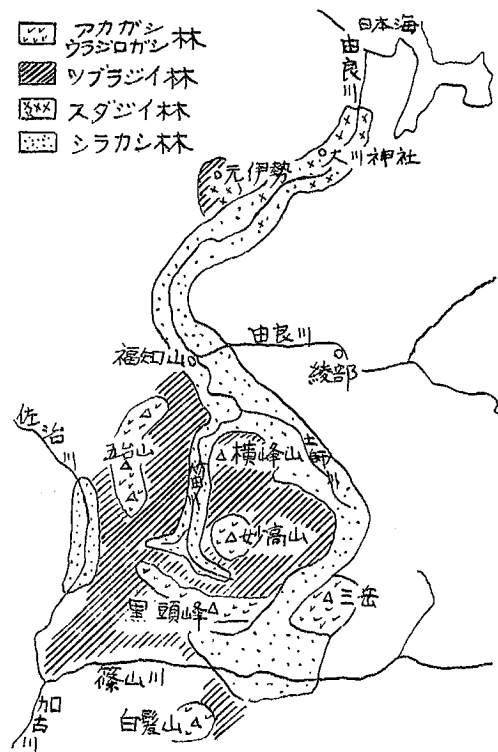


丹波の残存林と潜在植生

安 達 凱 夫

丹波地方の山は、現在ほとんどアカマツ林、クリ・クヌギ・アベマキ・コナラなどの雑木林、ヒノキ・スギの植林でおおわれている。しかし、お宮・お寺にはシイ・カシ類を中心とする暖帯林があまり伐採されずに残り、準自然林となっている。人々が神聖視したため、伐採をまぬがれたのであろう。これらの残存林を調べることにより、人の手が加わらなかったらどんな森林になるかという潜在植生を浮きぼりにすることができる。

私は由良川にそって舞鶴市・大江町・福知山市・市島町・春日町、それから加古川流域の山南町・氷上町・柏原町・西紀町・篠山町の残存林の調査をした。



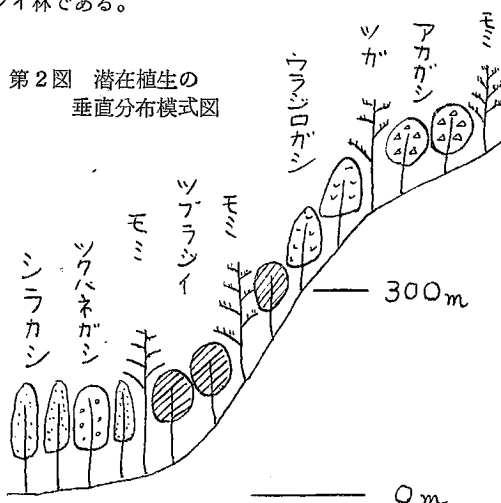
第1図 残存林による潜在植生の水平分布

調査から、まず潜在植生の水平分布を考えてみた。舞鶴市・大江町はスタジイ林である。大江町より南へ多紀郡までの平地・山麓はシラカシ林である。シラカシ林は三田市より南はほとんどなくなっている。そして、多紀郡は平地でツクバネガシが多い。ツクバネガシは多紀郡ではシラカシと混生し、氷上郡ではツブラジイと混生し

ている場合が多いが、北へ行くとはほとんどなくなる。アラカシもツブラジイ・シラカシと混生している。人の手が加わって荒れ、乾燥している所にアラカシが多い。

次に潜在植生を垂直的にみると、平地・台地・山麓はシラカシ・ツクバネガシ林である。山麓・山腹はツブラジイ林である。

第2図 潜在植生の垂直分布模式図



ウラジロガシは平地にはあまりなく、標高200mの山腹より頂上まで分布している。標高400m以上にアカガシ林が分布している。したがって、ウラジロガシは山の低いところではツブラジイと混生し、高いところでアカガシと混生している。モミは平地・山腹・山頂のどこでもカシ・シイ類と混生している。モミはこんもりしたカシ・シイ類の高木層の上に高くつき出て、そびえている。そして、被度・頻度もかなりある。ツガは多紀郡では平地・山麓にみられるが、氷上郡では山頂にみられ、平地では少ない。

次に平地から山頂までどこでも分布している植物は低木層ではヤブツバキ・サカキ・ヒサカキ・ヤブニッケイ・シロダモ・ネズミモチ・シキミ・ソヨゴ・アセビ・ヒラギ・タカノツメ・コシアブラ・アオハダ・ネジキ・ムラサキシキブ・リョウブ・ヤマウルシ・アオキ・カクミノスノキ・コックバネウツギなどである。草木層ではベニシダ・シンガシラ・ヤブコウジ・キジノオシダ・トウゲシバなどである。平地から400mぐらいの山腹までだけにほとんど分布しているものは高木層ではツブラジイ・シラカシ・ツクバネガシ・アラカシ・ナナメノキ・

タラヨウ・モチノキ・リンボクなどである。低木層ではカナメモチ・シャシャンボである。草本層ではツルアリドウシ・テイカカズラ・ナガバジャノヒゲ・トラノオシダ・シュンラン・マンリョウ・ナライシダ・ヤブラン・フユイチゴ・ピナンカズラ・マメツタなどである。標高400m以上の山に分布しているものは高木層ではアカガシ・コハウチワカエデ・アカシデなどである。低木層ではクロソヨゴ・ツリガネツツジ・ヒカゲツツジなどである。草本層ではミヤマシキミ・シノブカグマ・チゴユリなどである。

以上述べた中で顕著な残存林をあげてみると次のようである。

シラカシ林	市島町下竹田伊都岐神社社叢 大江町元伊勢外宮社叢（丹後）
ツクバネガシ林	篠山町西浜谷熊野神社社叢（シラカシと混生）

ツブラジイ林	春日町新才愛宕神社社叢 柏原町田路藤代神社社叢（モミ・ヒノキと混生） 柏原町柏原八幡神社社叢 市島町徳尾大原神社参道両側の社叢（ウロジロガシと混生）
ウラジロガシ林	西紀町高坂八坂神社社叢
アカガシ林	妙高山神池寺周辺の林（モミと混生）
モミ林	市島町徳尾大原神社裏側の社叢（ウラジロガシと混生） 妙高山神池寺南側の尾根付近（アカガシと混生）
ツガ林	愛宕山の尾根・稻荷神社付近（ウラジロガシ・アカガシと混生） 篠山町矢代春日神社社叢（シラカシ・ツクバネガシと混生）